

学習記録の可視化による教師の指導改善の取り組み

中垣 眞紀 木村 治生 岡部 悟志

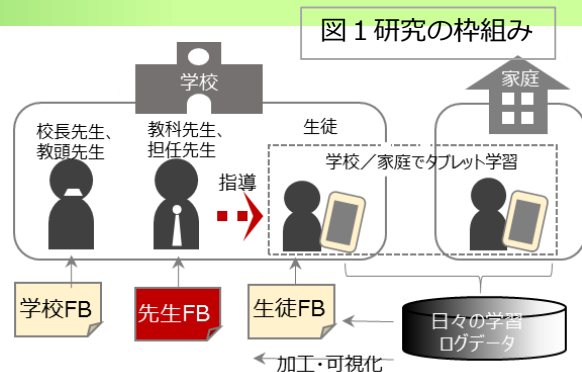
ベネッセ教育総合研究所

■ 研究の目的と枠組み

タブレット教材を活用することで記録される学習記録を、可視化することで、今までは見えていなかった学習者の学習状況が可視化できる。それを教員に「どのようにフィードバックすれば、指導改善に活かすことができるのか」を実践的に見出す。

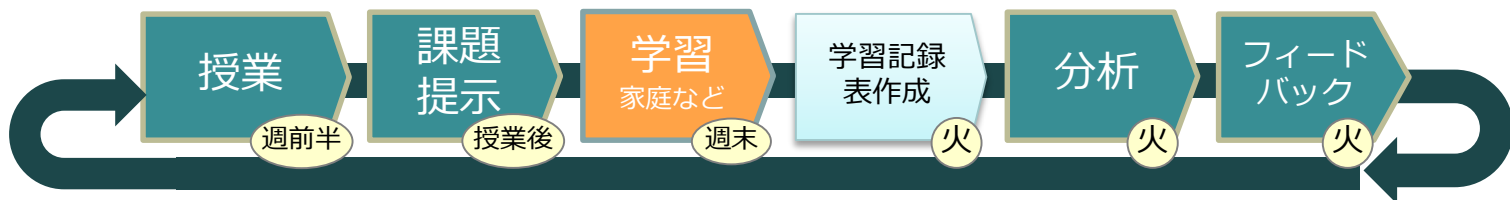
<概要>

生徒に1人1台タブレット教材を貸与し、学校および家庭で活用。生徒の学習ログデータから学習行動を可視化し、先生方や生徒本人にFBすることで、指導改善や学習改善につなげる試み。期間は2016年7月～2017年3月までの約8か月間。



■ 本実践で取り組んだ内容

1) 取り組みのサイクル (中2数学：一週間)



2) 週間学習記録表

		ユニット4 直角三角形の合同条件										
		レッスン1 (練習回)					レッスン2 (定着回)					
生徒ID	回答状況	q1	q2	q3	q4	q5	q1	q2	q3	q4	q5	q6
aさん	回答状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
bさん	回答状況	○	○	×	○	○	×	○	×	×	×	○
cさん	回答状況	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×
dさん	回答状況	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×
eさん	回答状況	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○
fさん	回答状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
uさん	回答状況	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○
vさん	回答状況	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○
wさん	回答状況	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
xさん	回答状況	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
yさん	回答状況	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
zさん	回答状況	○	×	○	○	○	×	×	○	×	○	○
クラス全体	正答率	96%	96%	96%	100%	100%	67%	71%	38%	33%	81%	81%

Cさん、どうした？

※可視化されるデータ

生徒ごとの問題正誤・取り組み時間・解き直し。問題ごとの正答率

全体の正答率が低い！何ができていない？

■ 見えてきた成果

① 生徒をほめる材料の発見

- 一人一人の生徒の問題への取り組み方が垣間見える⇒努力していることをほめる
「○さんは、時間かかっているけど最後まで頑張って解いているね」

② 生徒に「安心感」と「緊張感」

- 結果だけでなくプロセスも見せてくれている
- そこまでちゃんと見ている

③ 教師の指導改善につながる

正答率が低い問題がなぜできていないかを分析
⇒次の授業でフォローする

- 例) ・ 三角形の合同条件が混乱している。
・ 証明問題で、言葉では言えるが、数式ではきちんとかけていない

■ 今後の課題

- 週間学習記録表のデータ生成におけるタイムラグの解消
- 先生が、課題を把握しやすく指導に生かせる可視化の方法の追求
- 生徒が、自分の学習記録データを活用して、自分の学びを改善するための可視化の方法の追求